

講義
2

「現代家族の課題」



武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 名誉教授

白石 大介 氏

● 社会学博士、医学博士

● 米山奨学生

● 略歴

1969年 関西学院大学社会学部卒

関西学院大学社会福祉学科および近畿大学医学研究科精神神経科学等に於て研鑽される。

日本医療社会事業協会理事

ご紹介いただきました、白石と申します。こんにちは。

ざっくばらんな服装で来ました。本来はネクタイを締めてこないといけなかったかもしれませんが、話もざっくばらんかもしれませんが、話題提供になればと思っております。大体1時間半近くお話をさせていただきまして、皆さんから忌憚のないご質問をいただいて、話し足りなかったこととか、僕で答えられることはお答えして、何か皆さんにとってご参考になればと思います。

家族についてお話をというご依頼をいただきまして、現代家族のあり方というちょっと抽象的かもしれませんが、家族の課題というのは永遠にどの時代もその時期、その時期の課題があるわけです。で、家族も時代とともに変わっていつています。今の時代特有の家族風景といえますか、家族の特色があります。皆さんも家族を持っていらっしゃる方もおられると思いますが、これから家庭を持つという方もおられるかもしれません。いずれにしても、現代家族の課題について、何か問題提起ができればと思っております。

皆さんお考えいただきたいのは、家族と家庭とどう違うのか。類似語で家族、それから家庭という似たような言葉がありますね。最後にちょっと僕なりに、あるいは一般的な概念として、家庭と家族とどう違うのか。その定義みたいなものをお話しできればと思いますが、家族に関する本を最近探してみたんですが、『家族という病』という本が、幻冬舎新書で、1と2答え出ております。書いている人は、学者でも何でもなくて、NHKのジャーナリストだった女性であります。『家族という病』家族というのが病と、この方は主張しているわけです。

皆さんのお手元に配らせていただきましたレジュメに、病める現代家族、家族病理学という概念があるんですが、家族病理学とは何かというと、1970年代まで、家族病理学という学問がありました。1980年代以降、家族病理学という概念がなくなりました。それはなぜかということ、家族病理学のキーワードは逸脱、それからバラバラにすることを解体といいます。逸脱と解体とはどういうことかということ、簡単に申し上げますと、逸脱というのは家族から逸脱する。

家族から逸脱するってどんなイメージですか。

受講生：絶縁。

白石：縁を切るとおっしゃいましたが、簡単に言えば、家出とか家族という集団から逸脱する、離れる、あるいは逃避するとか、家出をするとか、非行少年になって、なかなか家に帰らないとか、蒸発とか、蒸発とは言わなくなりましたが、今も実際あるとは思いますが。家の経済的な支柱である父親がどこかへ蒸発する、家からとんずらする、そういうふうには、逸脱というのは、家族からどこかへ逸脱する、離れるとイメージしていただいたら、お分かりいただけると思いますね。

2番目の解体ですが、これは家族が解体するということは、どういうことですか。

受講生：離婚する。

白石：そう。離婚するとか、別居するとか、離れ離れになるとかいうことで、解体は今おっしゃっていただいたように、要するにバラバラ、あるいは母子家庭、父子家庭とかいうもの。

逸脱、解体、それからアノミー。アノミーというのは聞かれたことがないかもしれませんが、家族機能がうまく機能しなくなった、機能不全というふうには捉えていただいたらいと思います。家族がうまく機能しなくなった。つまり、かつてはその家の支柱になる、例えば父親あるいは母親とか、おじいさん、おばあさん、そういう倫理的な、道徳的な家族の柱の人がいたわけですが、そういう人がいなくなって、倫理観、道徳観もかつてほど言われなくなった、倫理観、道徳観が希薄になって、家族機能がうまく機能しなくなったということがあろうと思います。

先ほど申しましたように1970年代までは、家族病理学という学問自体が成立をしていたのですが、1980年代になると、家族病理学という本、専門書すら出なくなった、あるいは売れなくなった。それはどういうことかといいますと、逸脱とか、解体とか、アノミーとか、もうそんなに特別視することではないからだと思えます。現代家族では、家から出ていくとか、離婚するとか、別居するとか、あるいは家族機能がうまく

機能しなくなる、もう当たり前になってきていることを、あえて病理学、家族病理学というのは、言ってみればおかしいことかもしれないですね。僕なりの解釈では、家族病理学という言い方はしなくなったのだと思います。

ちょっと話が飛びますが、1980年代に入りますと、その2に書いてありますように、ホテル家族の出現。小此木啓吾という慶応大学の精神医学を担当していた、有名な先生が、現代家族を称して「ホテル家族」と言い出したんですね。僕もこの小此木先生の『ホテル家族』という本を読んだ記憶がありますが、ホテル家族とはどういうものかということ、簡単にいえば、家庭がねぐら化した。みんな帰ってはくるけれども、お父さんは午前さまで、12時過ぎても帰ってこない。そして朝早くまた出ていく。お母さんはお母さんで共働きをして、お父さんとは時間帯は違うかもしれませんが、朝お父さんを送り出し、子どもたちを送り出し、お母さんはお母さんで仕事をする。子どもたちはというと、中学生、高校生になると、部活だの塾だので忙しい。そうすると、一緒に夕食を食べるということもあまりなくなり、場合によっては朝食すら一緒に食べるのが少なくなっています。お父さんはお父さんで今日は早いからといって早ご飯を食べて出ていく。子どもは子どもで朝練があるから、早めに食べて出ていくとか、朝食も夕食もみんなで集まって食べるのは、土日か、祝祭日ということになって、家族団らんでワイワイ食事を楽しむということが少なくなっている。ホテルを連想していただくと、宿泊客はほぼ帰ってきて、ホテルで寝ますよね。翌日はそれぞれの目的に合わせて出ていく。朝ご飯を食べるのもバラバラ、ホテルに帰ってきて夕食を取るのもバラバラ、そんな意味合いで、小此木先生は、現代家族を「ホテル家族」というふうに言われたのだらうと思っています。

このように現代家族がホテル家族化したということはそう特別なことではないですよ。僕も1980年代は、大学の仕事で忙しかったですし、娘は勉強していたり、息子はバレーボール

をやっていたので、部活で忙しいということもあって、なかなか家族が一堂に会して集まることが少なかったんですね。これは笑い話にもならないような話ですが、お父さんが病院勤務で、よく当直で、家を開けたり、帰りも遅いと、幼児になった子どもが朝お父さんを送る際に、「お父さん、また来てね」言う。小さい子どもは毎日寝ていて、なかなかお父さんと会うことが少ないので、「お父さん、また来てね」みたいな、笑うに笑えない話が実際あるわけです。1980年代以降、こういうホテル家族化というのがごくごく一般化しました。

1番の、点の2つ目に入りますが、家族病理学から生活病理学。この生活病理学というのは、生活が病んできている。生活に問題がいろいろ生じてきている。どんなところで生活に問題が出てきたかといいますと、睡眠不足。

ある統計によりますと、1955年から60年ぐらい日本人の睡眠について統計化したものがあるのですが、60年から睡眠時間が減ってきているのです。日本人の睡眠時間は、外国人と比べても非常に少ない。僕も現役の時、文部科学省から助成金を頂いて、この睡眠とか食生活とか運動についての調査をしましたが、今資料が手元にないので、正確な時間は言えませんが、僕の記憶では20年ぐらいで、50分ぐらい、小中学生の睡眠時間が減ってきております。50分というのは、毎日、年間をとおしてですから、かなり大きいですね。小学生に、今一番したいことは何かと質問したことがあるのですが、まず寝たいというのです。小5の子どもがです。小5になると、もう塾とか、小6になると、もっとかもしませんが、やっぱり睡眠と答えるのです。ネットのニュースで、5歳でカナダに渡ったある天才児が、カナダの有名な5大学を、14歳で飛び級で受かったのをご存じですか？14歳なので、高校にはいっていないわけです。中卒でカナダの有名な大学5つとも受かってます。僕が何を言いたいかというと、天才児と彼は言われているのですが、彼は8時には寝ます。オース

トラリアに知人がいるのですが、オーストラリアの中高生は平均就寝時間は大体9時前後だそうです。夜の10時、11時まで起きてるといって、例えばクリスマスですとか、そういう特別な日です。ところが、今日本の中高生は、遅い子どもで12時、1時というのがざらにいます。塾から帰ってきて、宿題をし、宿題を終えて、そこから布団へ潜り込んでLINEをするとかね。愛知県の自治体では、9時以降のLINEを中止したのです。ところが、友達とのLINEになかなか返事をしないと爪はじきになる。皇室の愛子さんは11時過ぎてもLINEやってるらしいですね。このニュースの元は『女性自身』とか『週刊女性』とか、ニュースソースによるのですが、愛子さんは11時過ぎてもLINEをしても、翌日ちょっと寝坊して登校が遅れても、学校の先生はしかりもしない。だから、愛子さんからLINEをもらった友達は、返さないで申し訳ないというか、義務感というか、何か働くのでしょうか。愛子さんのように皇室の関係になると、学校の先生も大目に見てしまうのかもしれない。

今子どもたちの睡眠時間は、勉強だけではなく、そういうIT社会といいますか、LINEだけでなく、Twitterだの、Facebook等SNSをしている。

話を元に戻しますと、睡眠時間が非常に切り詰められて、睡眠時間が非常に少なくなると、これは原因がまだはっきり分かりませんが、先天性のものもあれば、睡眠不足とか、あるいは生まれてからの生活環境によるという発達障害。文科省は今、発達障害の子どもは6.8%、大体100人に対して6.8人いるという数字を出していますが、学校現場の先生に聞きますと、20人近く、2割近くいるということで、文部省は非常に少なめの数字を公表しているに過ぎないと学校現場の先生は言っています。だから睡眠不足というのも、発達障害の直接的、間接的な原因になっている可能性はありますね。

発達障害ということで、今話題になっている東京都知事の舛添さんはアスペルガーですね。非常にこだわりがあります。海外出張するのにファーストクラスの飛行機。ホテルもオーナースイー

トとか、税金の無駄遣いがあるって、論議が起っていますけれども、この間自民党の誰かが、納税すべきだ、言っていました、その人も政治資金で車2台買ったとか言われていますね。

イチローもアスペルガーですね。彼流の非常にこだわりがありますね。彼特有のこだわりがあれだけ大リーグで、あと50本で3,000安打とか、42歳になってもあまり故障することなく、現役で頑張っています。

アスペルガーという診断名を付けられると、マイナスに感じたりしますが、でも長所を大いに発揮すればいい。ノーベル賞受賞者の中にも、アスペルガーの人がいます。マイナス面に目を向けるのではなく、プラス面に目を向けられればいいわけですね。診断名を付けて、ラベル貼りに終わってはいけないと思います。ここまではちょっと余談です。

睡眠問題に次いで食生活についても、非常に偏りといいますか、ある人は、現代型栄養失調と言っております。現代型栄養失調とは、糖質ですとか、高カロリーのを偏り過ぎて、現代型栄養失調であっても、肥満児が多い傾向にあります。この現代型栄養失調の人には、何が足りないかということ、微量栄養素が足りないのです。微量栄養素というのは何かということ、ビタミンとかミネラルの類ですね。とりわけビタミンB、B1、B2、B6、B12が不足しますと、暑さ対策にビタミンB1、B2が良好なのはご存じだと思いますが、例えば南方へ行くと、豚をよく食べますよね。豚は、ビタミンB2が多いんです。B2は炭水化物等を分解してエネルギーに変えてくれるんですね。だから暑さ対策にはB2が非常にいいといわれています。それからB6、B12。これが不足しますと、脳細胞間の連携が悪くなる。だから、年を取ってB6、B12が不足すると、認知症のように頭が機能しなくなる。です、年を取ってからはなく、若いときから、どうぞ皆さんビタミンB群、女性の方は紫外線が強いときには、シミとか、お肌の荒れを多少予防してくれるCを。それか

らAやDも。ビタミン類は微量栄養素として非常に大切です。それからミネラル、カルシウム、鉄とか、いろいろあります。ハンバーガーとか、ファストフードの類は、確かにおいしいですが、それをやたら食べていると、高カロリーで太る一方です。微量栄養素、ビタミン群、ミネラルの摂取が欠けます。ですから、集中力が低下するということにもなりかねません。

皆さん朝食は取っていらっしゃいますか？朝食を取ることで脳細胞がリセットされます。例えば、僕も朝外出して、歩きだして50mほどいくと、「あ、〇〇を忘れた」と思い出すんですね。つまり、50mほど歩くと、そこでさらに脳細胞がリセットされて、それまで忘れていた忘れ物を思い出したりします。だから、脳の機能がうまく回転するには糖質が大切なんですね。甘いものが不足すると、いらいらするとかね。学校でよく最近子どもがいらついたりしていますが、ビタミンB6、B12あたりが不足すると、キレやすくなるそうですね。ですから、3食きっちり取って、できるだけ栄養のバランスのいいものを。女子大生が、ケーキを昼食代わりにするとか、ちょっとそれ最悪ですよ。やはりしっかり朝食を取り、栄養のあるもの取ってほしいと思います。

それから運動不足。これもわれわれ現代人、皆さんも僕も、共通してるかもしれませんね。車社会で便利になってますから。ですから僕は、電車に乗るときにできるだけエレベーターとかエスカレーターに乗らないようにしています。階段を上るように、歩くようにしております。上るときも、下りるときもね。よほどしんどかったりする時は皆さんも無理することはないと思いますが、この頃、中高生がエレベーターに乗ったりしていますね。それは急いでいるか、どこか足が悪いということもあるのですが、できるだけ自分のためにエレベーター、エスカレーターは利用しないで、運動を心掛けるようにしていただきたいと思います。

ちなみに、文部科学省から助成金を頂いて、何千人という幼稚園、保育所、小中学校で調査を、保護者にしました。睡眠と食事と運動とど

れが一番大切だと思うかという質問で、保護者の方が一番重要だと思っていることは何だと思われるか？

受講生：睡眠。

白石：そう。睡眠なんですね。ところが、保護者の65%は食事。なんでかなと思ったんですが、一時食育って言われてましたよね。確かに食育も大切なんですが、あれは厚生労働省も文科省も食育と言いつつ、保護者の方はその影響で、大体65%が食事が大切だといっているのです。睡眠といった人が30%。あと5%は運動。皆さんも経験上お分かりだと思いますが、お疲れのときにいくらピフテキやら美味しいものを食べても疲れは取れませんよね。睡眠を取る、しかも、良質の睡眠を取っていただきたいのです。良質の睡眠というのはお分かりになりますか。良質の睡眠があれば質の良くない睡眠もあるだろうということになるのですが、実はそうなんです。良があれば、悪。質の良くない睡眠もある。質の良くない睡眠というのはどういうものかという、例えばアルコール飲んで寝るとよく眠れるという人もいますが、アルコールを飲んで睡眠を取っても、あまり良くないのです。寝やすいかもしれないですけどね。睡眠の質としては良くないのです。むしろ、アルコールで寝るよりも、睡眠導入剤を使ったほうがいいんです。

それから質の良くない睡眠は、眠る直前までネットで検索するとか、メールを送るとか、SNSをするとか、それは睡眠に入る1時間前には終えてほしいのです。というのは、睡眠直前までネットやSNSをしていると、脳は興奮状態で寝るので、自分では興奮しているとは自覚されていないと思いますが、知らない間に脳はエキサイティングになっているのです。だから、良質の睡眠を取るには、眠る1時間前にはネットの類はしないで、1時間前ぐらいにぬるま湯のお風呂に入ってください。熱いお風呂は交感神経を活発にします。眠る前には副交感神経を優位にしたほうがいいのです。副交感神経が優位になっていると、

眠くなります。交感神経優位というのは、やるぞとか、今からなんかやらねばという時は、交感神経が優位になるのです。眠る前に、今から眠るぞ、と眠れるわけじゃないですね。副交感神経を優位にする、それにはぬるま湯のお風呂に入るといいのです。例えば明後日に、大会があるとしますね。陸上でも水泳でも、頑張ってる際には、前の前の晩に熱めの風呂に入ったらいいと言われていますが、そのまま眠れなくて、明後日に支障が出てくるかもしれませんので、それは個々の体質と相談してください。スポーツ医学で、熱い風呂とか、ぬるま湯の風呂とか、交感神経、副交感神経に影響があり、副交感神経を優位にして眠るほうが良質の睡眠が取れるといわれていますから、ぜひ眠る際には、トーンダウンして、明かりもだんだん暗くして、静かな音楽を聞く。ジャズとか騒がしいロックとかではなく、静かな音楽がいい。眠りに入る環境を整えると良質の睡眠が取れます。ところが現代社会ではなかなかそうはいきませんよね。眠る直前までLINEが入ったり、メールが入ったり、携帯電話が入ったりする。だから現代社会では、良質の睡眠が取れない環境になっています。良質の睡眠を取れば、比較的短時間ですっきりしますが、質の良くない睡眠では、7時間でも、8時間近くでも、目覚めが良くない。目覚めが良くないというのは、1つの指標になると思います。昨夜眠る前に何をしていたか考えて、交感神経優位なことをしているのであれば、眠る前のあり方を変えて、良い睡眠を取るようにしてください。そうすると短時間ですっきり目が覚めるようになると思います。皆さんもぜひ工夫していただければと思います。

生活病理学というのは現代社会のさまざまな、個人ではコントロールし難い、デジタル社会でありますとか、個人でいくらコントロールして、自分の生活の中ではできていても、社会全体はコントロールできませんから、何かそこで工夫、二工夫しないと、良質の睡眠、食生活、運動が取りにくくなっています。ですから、そこに生活病理学の落とし穴がありありと出て

います。

3番目ですが、家族機能の低下。これは冒頭でも家族病理学のことを申し上げましたが、家庭教育の低下、もしくはこの機能不全が起きている。昔は怖い、地震、雷、火事、おやじとって、僕のおやじも怖いおやじでした。小さいときにおやじが大切にしている時計を隠し持っていたら、見つかって、鉤を持って追いかけられたことをいまだに覚えています。おやじというのは怖いという印象がいまだに残っています。そういう怖い人がいたらいいというものではありませんが、やはり怖い存在があって抑止力が働くわけですね。人間の行動は、したいという欲望と、してはいけないという抑止力と、場合によって、その両方が必要だと思います。したいことばかりしていても、抑止力、ブレーキ役というのはどうしても必要になるかと思えます。ところが今、家庭教育をどうしたらいいかわからないという親御さんがたくさんおられる。家庭教育というの難しいのですが、家庭のしつけは3歳までにしてください。皆さんの中に子どもさんがおられる方もいると思いますが、しつけの基本とはそんなに難しいことではないと思います。僕は基本的に、して良いことと悪いこと、いけないことはいけないとはっきりすること。これは多少母親と父親で温度差があるかもしれないですが、お父さんはいいと言ったのに、お母さんは駄目と言う、この温度差があまり大きいと、子どもさんが戸惑ってしまいます。ですから、多少温度差があるのは仕方ないとして、このして良いこと、悪いことのけじめは大体3歳までにしてほしいと思います。三つ子の魂百までといいますが、しつけの原型というのは、して良いことと悪いことの基本形が家庭教育の基盤になっていくのではないかと思います。それは決して難しいことではないですね。それは各家庭でも温度差があっても、しょうがないと思うのです。A家では良い。B家では悪い。C家では分かんない。いろいろあるかもしれないです。個人的にお父さんとお母さんが

多少違って、おおむね類似している。お父さんとお母さんが話し合う中で、その家庭の基準をお話していただければと思います。

家庭教育の低下というのは、そういうしつけがされないがゆえに、家庭教育がされていないことが多いのです。しつけはして良いこと、悪いことのけじめ。家庭教育は、うちの家庭では何を大切にしたいか。わが家では、家内と話して、まず相手の気持ちを大切にすること、一番に考えてきたつもりです。皆さんは皆さんのご家庭で何を重視されるか。何を一番大切にお子さんを育てるか。それは皆さんのご家庭で、あるいはご夫婦でお考えになればいいと思います。そういう相手の気持ちを大切にすること、相手の立場を尊重するとかということから派生して、いろいろな家庭教育が出てくるのではないかと思います。

それから、生活の場としての機能低下です。生活の場としての機能低下というのは、皆さんのご家庭で生活音というの聞こえますか。生活音とは、例えば朝起きる前に、お母さんが朝食の準備で野菜をコンコンと刻む音も生活音だと思います。東京に赤羽団地という大きな団地がありますが、そこには台所がないのです。共働き家庭が多くて、お惣菜を買って帰る。だから台所は要らない。調理したものを買って帰る。あるいは、ある程度調理されたものを買って帰って、小分けする。台所がないということは、包丁がないということです。そういうことで、20年前か30年前かに話題になったことがあります。ということは、家庭を象徴する生活音がないですね。一昔前だったら、台所でご飯を炊くとか、風呂を沸かすとか、僕も小学生の頃、風呂は火を切って、石炭をくべて、風呂沸かしました。今はそんな家庭は少なくなって、大概ガスが電気かな。オール電化とか、オールガス化になっていき、生活音はだんだんなくなっていくのではないかと思います。台所がないとか、食事を家で作らないとか、食事を一緒にしない、外食に頼る、となると、生活の基本場としての機能がなくなりつつあると思います。

家族の支柱が不在、怖いおやじ、おやじでなくてもお母さん、おばあさんでも、おじいさんでもいいのですが、そういう怖い存在なり、家族の中心になるような人がいなくなりつつある。

2枚目にいきますが、変わる妻と変わらない夫。これは、2000年に入って特に顕著になりつつあるのではないのでしょうか。奥さんは変わりました。何を変わりだしたかという、やっぱり共働き。あるいは結婚せずに自分の社会的な役割を担って、仕事を通じて自己鍛錬する、自己実現をする女性が増えつつあります。家庭でいえば、奥さんも働き、ただパートで経済的な収入を補うだけではなく、仕事を通じて自己実現をされている。女性は今変わりつつあると思うんです。

そして、変わらない夫。男性はあんまり変わってない。家庭の中でも、社会の中でも。最近見る1つの規格は、男性が家庭の中でどれだけ役割を果たしているか。例えば食事を作るとか、子どもの面倒見るとか。つまりお母さんがしてきたことを、夫も担う。これがまだまだ日本は

遅れています。単純な棒グラフで数日前ある新聞に載っていましたが、男性が家庭の中で果たす役割は欧米の3分の1から4分の1です。共働きが今増えていますよね。だから性役割の変化。昔、家内って言ったじゃないですか。「うちの家内は」と。奥さんは家の中にいるということですね。うちの近所の人に、「家内じゃありません。私は家外です」と言うてね、ごもっともでね。その家庭は家風も出てるのですが、家庭に拘束されない妻が増えていると思います。女性全般がそうかもしれないですね。結婚しない。子どもも産まない。子どもを産むとしたらシングルマザーでいいとかね。もっと自分の自己実現、自分のやりたいことを貫き通すということで、女性に経済力が付いてきたということが一つ大きいと思います。ですから最初の病める家族病理の2番目の解体、離婚が増えているというのは、女性に経済力が付いてくるから、女性が離婚しやすくなっているように思います。今までは女性に経済力がなかったがために、離婚したくても子どものことを思うとなかなか離婚できないことが多かったように思

いますが、最近は経済力のみならず、それが家庭であれ、ある意味で社会であれ、縛られたくないという女性が増えてきていると思います。

次に少し過激かもしれませんが、不倫と家族。やがて不倫という言葉は死語になると僕は思います。何故かというのもおかしいかもしれませんが、僕も初婚でもう50年近く同じ妻と生活していますが、考えるとこんな不自然なことはないと思います。僕も振り返ると、何回も離婚しようかと思いました。嫁もそう思っていたと思いますが。昔、慶応大学の日本文学のハヤシ何とかという先生が、人生4回離婚して5回結婚をしたら、初めてそれが本物の結婚だと言っていました。バツイチとかバツニとか言いますが、あれは戸籍謄本にバツが入れるので、そう言われたのだと思います。皆さん、今から結婚しようとする方があれば、男性であれ、女性であれ、離婚歴のある人としたほうが僕はいいと思います。何故かという、バツイチ、バツニの人は、自分のこういうことがちょっとわがままだったかなと、思われてると思うんです。だから、僕は次回結婚しようと思ったら、ぜひバツニの人と。もう少し遅いかと思まだ相手を考えるのには早いかなとも僕は思っています。皆さんも未婚の人はぜひ、バツイチ、バツニの人で。昔、1歳年上の人には銀のわらじを履いてでも探せとか、なんかそんないわれがあって、なんで年が1つ上の女性がいいのかは、よく分からないのですが、男は年上の女性だから気ままにできるかもしれません。ですので年は関係なく、今日の収穫として、バツイチ、バツニを目指せということで、そうするといい家庭が築けると思います。

今、既婚者同士で付き合ったりして、しきりにうわさになってますが、不倫という女性が悪者扱いされる。でも、女性だけが悪いのではなく、男性もです。男女同罪だと思うのです。不倫という言葉がなんかね。不倫してそれで普通だと思うんですよ。昔「不純異性交遊」という言葉があって、「不純異性交遊」というのは、高校生、最近中学生もかもしれませんが、当然年頃になれ

ば、異性交遊は不純じゃない。純粹、自然発生的、当たり前です。誰が付けたのか知りませんが、「不純異性交遊」という言い方が不純です。不倫というのは、それは倫理に背くことかもしれませんが、人間も動物ですから。世の中は矛盾だらけです。なかなかそんな清純ばかりとはいきません。

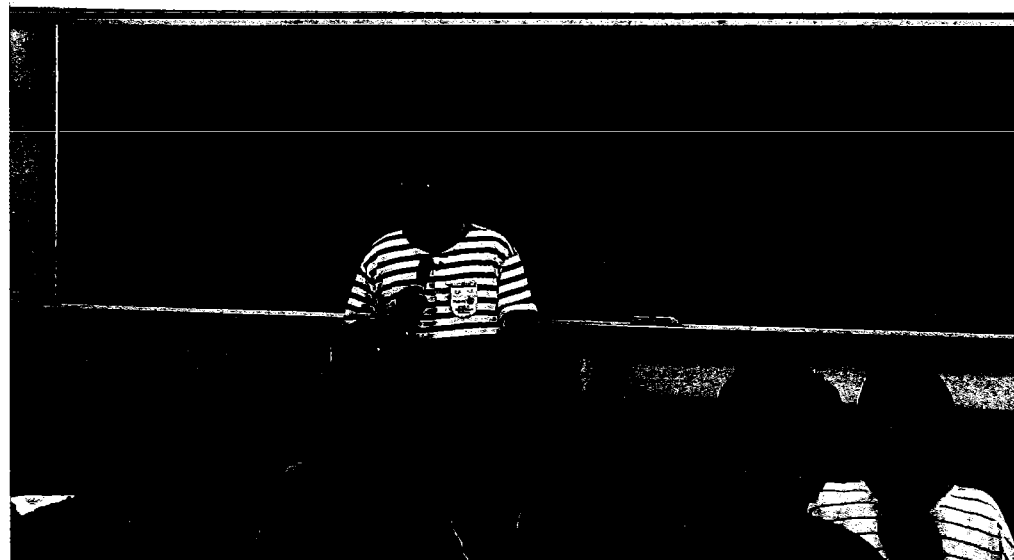
もう遅いかもしれないですけども、もう一度青春を謳歌したいなど、この年になって思うのです。やがて不倫という言葉は死語になると思います。では不倫していいのかという、それは難しいと思いますが。

現代家族の課題に入らせていただきます。家庭機能の回復をどうすればいいのか、4番目にお話ししました、変わる妻、変わらない夫の所、やはり男性が変わっていかないといけないと思います。男性が変わることで、家庭機能が回復していきます。イクメンですかね。最近では、男性も育児パパになっておられる方、料理も、ぜひ男性の皆さん、してください。僕は2000年に胃がんになって胃を全摘しているのですが、50キロを割るくらいやせていました。今はふっくらし過ぎてしまったんですけど。胃を全摘していますから、大学ノート1冊半ぐらいレシピを作りました。自分で実践して、これはうまいとか、これは超うまいとか、自画自賛していました。そのノートがどこにいったのかが行方不明なんです。今も作ります。味のさじ加減でどんな味になるかと思って楽しみで、家内も喜んでくれます。料理は自分が胃がんになるまではほとんどしなかったのですが、やればやったで楽しいもの、面白いので、ぜひ家庭機能の回復のためにも、男性が大いに家庭生活において、料理、育児、いろいろな場面に活躍していただきたいと思います。

2番目ですが、男性が目覚める時代です。従来の男性像では駄目で、これは自分のことも含めて、男性の役割、男性の機能回復といいますか、従来の男性像からどう脱皮して、自分がどういう男性像になっていくか、あるいは女性は、

RYLA 第38回RYLAセミナー

2016.5.19～5.22 於.神戸YMCA余島野外活動センター
主催:RI第2670地区・RI第2680地区 RYLA運営委員会



どういう男性像を求め、自分がどういう女性を目指していくのか。これは相互で考えていただかないといけないと思います。

それからシングルマザーが増加していますよね。父子家庭も増加していますが、単親家庭、父子家庭、母子家庭が実際多いです。父子家庭は、500万ぐらい。母子家庭の年収が、180万円ぐらい。その開きが非常に大きいので、やはり母子家庭への社会保障的な援助をどうするかということが、これからの家族の課題になっていくのではないかと思います。

最後になりますが、冒頭でも申し上げましたように、家族と家庭とどう違うのかということをお考えいただきましたでしょうか。ある辞書によりますと、家族とは、「夫婦の配偶関係や親、兄弟などの血縁関係において結ばれた親族関係を基礎にして成立する小集団。社会構成の基本単位というのが家族。」普通家族というのは、家族を構成する人を指して言います。家族集団を表すこともあるし、基本的には社会構成の基本単位です。家庭とは何かというと、夫婦、親子など、家族が集まり、また家族が生活する場です。家庭とは、家族が生活する場、場所、家族はその構成人員、人、ということで、配列できるのではないかなと思っております。家族と家庭とはっきり定義して、話したり、書いたりしてないことが多いかと思いますが、実は家庭と家族は違うということを念頭に置かれて、お話いただければと思います。

予定の1時間半近くなりましたので、あと30分ほど、気軽にご質問いただければと思います。いかがでしょうか。

小平：はい、質問。

白石：はい、どうぞ。

小平：ありがとうございました。A班の小平です。家族病理学のところで、逸脱という言葉が

あったと思うのですが、逸脱の中で家出とか蒸発とかあって、病理なので悪いことなのかなというのは思ったんですけど。その逸脱を考えると出家とか、いい方向に家族から離れるみたいなこともあるのかなと思ったのですが、概念的にはいかがでしょうか。

白石：いいご質問だと思います。自立していくうえで、家族から離れていく、自立し独立していくという意味では、逸脱というとマイナスのイメージになりますが、家族から育てっていくという意味合いもあるのではないかとご質問ですね。

それは非常にプラスの意味であると思います。ただこの家族病理学という、どちらかというとマイナスイメージの強い逸脱は、蒸発とか家出とか、家族が嫌になって逃避したいということが、ももとの逸脱という意味だと思います。だからその家族から抜け出たいために逸脱をしていくという意味が、家族病理学での逸脱です。

ありがとうございました。いい質問をしていただきました。他にいかがでしょうか。何でも結構です。どんなことでも結構です。はい、どうぞ。

太田：お話ありがとうございました。C班の太田です。先ほどのお話にもつながるんですけども。家族にもともと病気があって、そこから抜け出るために逸脱するというのはいい方向ではあるのではないかと私は思います。例えばシングルマザーで3人に1人の子どもが貧困の子どもだったりという世の中で、貧困の連鎖を断つには、自分の家族からちょっと離れて勉学に励んだり、そういうのが必要な場合があるのかなと思うのですが、そういう環境で育った子どもたちにとって、自己肯定感を入れていくというのが、特に難しい作業だと思うのですが、臨床研究学的には、そういう作業をどう具体的にアップロードしていくのか、家々でもう決められているものかなと思って。

白石：ありがとうございます。これもいいご質問だと思います。臨床教育学的にというとなし

いのですが、自己肯定感とか、自尊感情を養うとか、自信を持って生きていく、歩んでいく足がかり。ももとの家族が、病理的で自分にとって非常に違和感があるところで育った子どもは、自尊感情が低いのです。自己肯定感も低い。ですから、自尊感情を高めたり、自己肯定感を増したりするのが、なかなか難しいです。それが教育の一つであろうと思うのですが。やはりそれには専門的な教育も必要だと思います。

今の学校教育は受験勉強が主ですから、子どもたちの自尊感情を高めたり、自己肯定感を高めることは難しいと思います。成績がいい、勉強は駄目でも、走りが速い、けんかが強い、あるいは家のお手伝いをよくするとか、優しいとか、その子どもに対する評価が多様になりました。今の学校教育はどちらかというと成績本位ですよ。成績が低いとどうしても自己肯定感も低くなったり、自信が持てないとか、他のいい面を評価されませんから、悪い場所から飛び出しても、自立してうまくやっていけるか、自信を持って逸脱する、出ていくには、だいたいエネルギーがいますし、なお悪い方向に行ってしまうかねない。飛び出す勇気があるのであれば、キャッチして、なにかうまくいい教育、学校教育とは違う、家庭教育とも違う、社会教育的な、これから21世紀型の教育のあり方というものを、模索していく必要があると思います。

学校教育もゆとり教育から、学習本位の、受験勉強本位の授業時間が増え、子どもの関心事に合わせたゆとりある教育が損なわれてます。

だから教育とは何かということが大切だと思うのです。教育は、教え育てると書きますよね。例えば英語のエデュケーション。ももとはギリシャ語のエドゥカチオンで、皮をむいて本物を見るというのが、エドゥカチオンの意味なんです。例えばバナナの皮をむくと、外は黄色でも中身は白ですね。外観と中身は違います。外観は悪そうでも、中身はいいやつかもしれない。外観は良さそうでも中身は悪いやつかもしれない。ですからエデュケーションとは、良さを引き出すということなのです。必ず人間には長所

もあれば短所もあります。長所をいち早く見つけ、どうそれを引き出していかか、これからの教育に課せられた大きな課題だと思います。ですから、いいものを引き出してあげれば、必ずやその子の自信につながるとは思いますし、自尊感情を高めることにもなっていくので、ぜひ皆さんこれからの時代を背負って立つ人をお願いしたいと思います。また一緒に考えていかなければならないことだと思います。ありがとうございます。

どうぞ、どんなことでもいいですよ。はい、どうぞ。

春木：A班の春木と申します。ありがとうございました。現代家族の課題という部分で、男性が変容していくべきで、その背景として、女の人にも社会に参画するということだと思っておりますが、そこで実際に僕たち男性が変わっていくべきというお話をお聞きして、実際に僕、今はまだ20歳で、保護される立場から変わったばかりで、家庭を作っていく側のお話を聞いてすごく参考になったのですが、実際に僕がいずれ家庭を持つときに、今の男性像から変わるという部分で、具体的にどういうところ変えたらいいのかなというアドバイスをいただけたらいいなと思います。

白石：ありがとうございました。それは先ほど申しましたように、例えば料理は女性に任すとか、子育てもおむつ交換を女性に任すのではなく、男性も料理を作ったり買い物に行ったり、子育てをしたり、これは女性の役割、これは男性の役割というふうな、従来はそういう役割分担というのがあったと思いますが、男女で分担することの良さ。まだまだ日本は保守的だと思いますか、かつての役割分担を背負った、あるいは引きずった社会ではありますが、日本は日本なりの展望というか、超変革、男性の超変革を目指すにはどうしたらいいのか。

スウェーデンでは、お母さんとお父さんのどちらが育児休暇を取るかということ、お父さんが

育児休暇を取ってお母さんが働くケースもあるのです。そういうお父さんをヘンマパパと言うそうです。日本ではあまり考えられないですよ。お父さんが育児休業を取って、お母さんが働いて、お父さんが1日家の中で育児とそれから料理だの洗濯だの買い物って。それがいいかはわかりませんが、仮にそういうモデルをいっとすれば、やっぱり男性像が変わっていくわけですよ。女性が働いて男性が家で子どもの面倒を見る。そこまでなかなか踏み切れないかもしれませんが、そういうこともありだというふうに考えていただいているのではないですかね。

それが、全ていいとは思いませんので、その辺を未来の奥さんと話し合っ、て、どういふ家庭像を作り上げていくか。家庭像はそれぞれ違ってもいいと思うので。

ありがとうございます。いかがでしょうか。同じ方でもいいですよ。

小平：A班の小平です。今の話を聞いていて、家族に対して働き方、父親でも母親でも、夫婦の働き方というのが強く影響してくるかなと思ったのですが、この家族学、家族の研究で働き方について研究をされているのでしょうか。

白石：働き方の研究については僕の知る範囲では分からないのですが、これから新しい家族像を模索するに当たって、研究されてもいいのではないのでしょうか。ぜひ研究してください。オランダでは、確か1人の人が1週間に3日とか、働き方も違います。最近若い人の中には、正社員は嫌でパート職がいいみたいな。それはパート職で生計が成り立っていれば、いろんな働き方があっていいと思うんです。いちいち職場に行っ、て働かなくても、家のパソコンで職場と同じような仕事ができる。そうすると往復の時間が節約できる。別に生かされますよね。だから働き方というもの、新しい学問になっていくかもしれないですね。それは時代と共に働き方、場合によっては遊び方も変わっていいところですし、ぜひ関心を持ってやっていただき

たいなと思います。

今、ご質問いただいて、ちょっと触発されたんですが。今産業ロボットが活躍してますよね。自動車の組み立てとか。30年後、2045年に人工知能が人間の知能に追いつき追い越す、ちょうどそういう端境期だといわれている。

そうすると何がどう起こってくるのか。新聞等々で見ていると、ロボットにできない仕事をしないと、2030年だったか、大体57%は失業する、多くはロボットが代替機能をはたす。今、銀行でもロボットが対応してるとか、長崎のハウステンボスのホテルではロボットがフロントで対応する。医療とか介護とか、ロボットにできない分野も多くあると思いますが、そのうちロボットが小説を書きだすとか、ロボットが東大の入試に受かるとか、偏差値で60近く点数を取るとか。将棋とかチェスとか、チェスはもうだいぶ前にロボットが、人工知能が人間に勝っていますね。今の教育に対しては非常に不満があります。受験勉強、あんなのはロボットが得意なんです。数量計算をするとか統計を取るとか。パナマ文書を知っていますか？あれを人間1人で解析するには20年かかる。ところがパソコンなら何日？2日位で分析できるのだったかな。アメリカにワトソンというコンピューターがありますが、アメリカでは、医療ではどういふ治療がこの患者さんには適切かというのを、人工知能がやりだしたんです。だから、へたをすると人間が失業して、ロボットばかりが働いてる。だから皆さんが楽をするにはロボットを2、3台買う。ロボットに働かせて、悠々自適でいけるかもしれないし、家に帰ったらソニーの何とかくんが「わんわん、お帰り」とか言って、家族のあり方も全く違ってくるかもしれません。

余談を思いつくままでしたが、ありがとうございます。

何か他にありませんか。

ロータリアン：われわれの年ぐらいになりますとですね、先生、「逸脱」はしてないんです。「浮遊」しているんです。家にはおるんですけど

も、おり場所がない。そういう場合は人間が変わればいいのですけれども、変わらないばかりかこうやって浮遊はしているだけで、どうやっておればいいのでしょうか。この辺りは全ロータリアンの願いですが、代表して。

白石：この間、初めて僕はクルーズに乗ったのですが、神戸発、鹿児島に寄って、台湾は台北と高雄と花蓮と、9日間。また神戸港に帰ってきて。高齢者の人が多くて、2,500人ぐらい乗っていました。日本人だけじゃなく、東南アジアから欧米の人2,500人。僕は夫婦で行ったんですが、テーブルを囲んで食事をすると、いろんな人と仲良くなる。それで、ある奥さんはご主人が78で病院を三つ経営していて、奥さんは65で、もう家におってもらったら困るんですっていうのです。ご主人が定年退職して家にいるがために、奥さんが病気になって、浮遊するどころやない。家族病理になりますやろ。今まで扶養されてきたんやと。

ロータリアン：違う「フヨウ」になるんですよ。

白石：違う「フヨウ」。いやいや捨てられんようにしてください。それはお互い浮遊であれ「フヨウ」であれ、そうならないためには、必要とされる、ぜひ家にいてほしい。ここにいらっしゃる方は、まだまだお忙しくて元気で働いていらっしゃいますけれども、高齢社会になって老老介護とか、認認介護とかになったら、浮遊族という新しい言葉が出てくるかもしれないですね。造語をうまく作られましたね。これが僕の今日の収穫でした。

何かご質問ありませんか。

黒田：黒田と言います。家族の基盤を私も随分関心を持ったのですが。その中で核家族の問題、先ほど1970～80年頃に、病理学家族うんぬんという名前が消えたのは、恐らく核家族についてある程度分析が終わったのかと。しかし、今、介護で殺人とかそういう問題も出てきている状態なので、核家族も病気というか、もうかなり

深刻な問題になってるんじゃないかと思うのですが、対策の立てようがないんでしょうけれども、ここまで広がってしまいますと。ただ放っておくと、核家族がさらにバラバラになっていくだろうという状態について、どういうふうにお考えかなと。

白石：ありがとうございます。今、1人世帯で配偶者のどちらかが亡くなっている世帯が3割を超してるのです。いち早くフランスが30%を超えた。だから1人家庭は増えていくと思うのです。意味合いが違うかもしれませんが、大家族から核家族化し、核家族から単身家族というか、離婚とか別居とか、60代でも夫婦別々に、生きていらっしゃるのですが、あえて別居して、週末だけ一緒に食事でもしたり、ウィークデーは別々に暮らしている家族もあると聞いておりますが、核家族は、1人世帯は確実に増えていくでしょうね。

僕は今、いのちの電話に関わって36年目になりますが、最近高齢者の方々が、80代で、自分が頭がはっきりしてる間に遺書を書いて、できれば安楽死したい。どうしたらいいかという相談がくることある。安楽死というとオランダとオーストラリアでしたか、アメリカのある州の一部とか、まだまだ限られた国、州しか認められておりませんが、僕もゆくゆくは安楽死の勧めみたいな本を書きたいと思っています。今そういうことを言うこと自体が非常に不道德なことだと思うのですが、高齢者の方とざっくばらんに話していると、「安楽死したいですね」「もう今惰性でしか生きてないです」とか、結構耳にすることが多いのです。1人になるとやっぱり生きる支えというのが非常に乏しくなるんです。ですからこの死の問題とどう関わっていくか、どう向き合っていくか、これまた新たな問題になると思うのです。答えになってないと思いますが、ありがとうございます。

もうよろしいでしょうか。

ご清聴有難うございました。